



2013年(平成25年) 2月

埼玉新聞社 本社代表

一人ひとり川口 ◆ビジネス実務学 キャンパス見学 7333-0831 埼玉県 046-294-1111 E-mail

11市町村で2組合に

ごみ広域処理 比企・県央地域 3組合と2市 枠組み再編へ

市町村が行う一般廃棄物の広域処理で、比企圏域を核とする8市町村と、県央圏域を中心とする3市が新たな枠組みで、ごみ処理施設の新設に向け検討に入ることが19日分かった。新施設建設は当初、鴻巣市と北本市、吉見町で構成する埼玉中部環境保全組合(処理場＝吉見町内)の検討課題だったが、枠組みをめぐる調整がつかず別々に分かれて協議することになり、三つの一部事務組合と二つの市がそれぞれ単独で行っている11市町村のごみ行政が将来、2組合に再編される可能性が高まった。同日の同組合議定例会議で、管理者の新井保美吉見町長は「中部環境組合を中心に新施設整備を検討したが、方向性が分かれた。今後は各自自治体で協議を進めていく」と述べた。(沢田裕行)

別々に新施設を検討

比企を核とする枠組みは吉川地区衛生組合(処理場＝小見町と東松山市、桶川市、小川町内)を構成する小川町、嵐山町、滑川町、ときがわ町、東秩父村の8市町村。県央を中心とする枠組みは鴻巣市と北本市、行田市。鴻巣市は旧吹上町域のごみ処理を現在、行田市とつくる彩北広域清掃組合(処理場＝行田

10 見守りを

児童の登下校の付き添いや学校行事などに協力している地域ボランティア「学校応援団」に感謝の気持ちを伝えようと、白岡市上野田の市立青義小学校は感謝の会を開催した。

11 サケ稚魚

行田市須加の利根大堰(おおせき)で同市立中央小の児童が、自分たちで育てたサケの稚魚約2000匹を利根川に放流。約4センチに成長した稚魚に「戻ってきてね」と別れを告げた。

5 県内加工食品 シーズン限定 16 旧大滝の小 連続開催

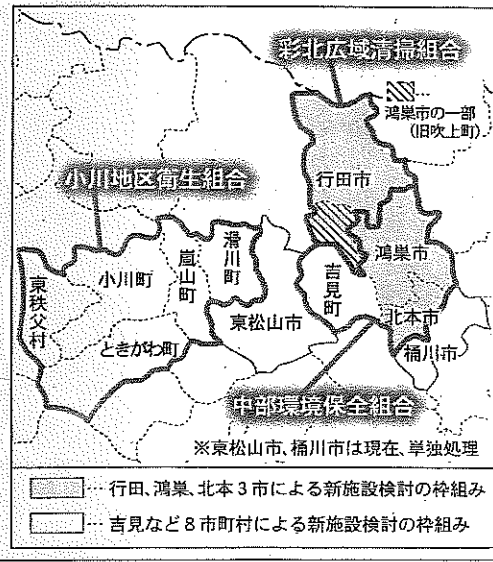
市内)で行っている。新たなごみ処理施設の新設は当初、中部環境組合の検討課題だった。現施設(1984年設立)の老朽化などに伴い、2011年1月から検討委員会などを設置し、枠組みを含め協議を進めてきた。

その過程で東松山市や桶川市など8市町村から参加の申し入れがあり、中部環境の3市町を加えた11市町村による広域化を検討したが、「構成自治体数が多過ぎる。範囲も広く付き合いの薄い地域がある」として、鴻巣市側は中部環境に所属する3市町に行田を加えた4市町の枠組み

を提案。一方で吉見町側は広域化のメリットを踏まえ、行田を除く10市町村の枠組みを主張。調整がつかず、中部環境の事業と切り離れた枠組みで検討することになった。

鴻巣市の原口和久市長は「先週開いた3市長会議で鴻巣、行田、北本の3市を核とする枠組みで施設建設を検討していく方針を確認した」と語った。3市の総人口は約27万5千人で1日当たりのごみ搬出量は約260トンを見込めるまで継続する。

一方の8市町村側は、昨年11月に施設整備に関する連絡会議を発足させている。吉見町の新井町長は「関係市町村と連携して7年以内に新しい施設を造りたい」と述べ、26日に予定する8市町村会議で枠組みを再確認し、建設に向けた協議を具体化させる方針だ。8市町村の総人口は約27万人で1日当たりのごみ搬出量は約270トン。中部環境でのごみ処理は新施設が完成するまで継続する。



※東松山市、桶川市は現在、単独処理